

第4回 SSH オーストラリア海外研修報告

期 間 平成 31 年 3 月 2 日(土)～3 月 10 日(日)

場 所 ニューサウスウェールズ州コフスハーバー

パートナー校 セント・ジョン・ポール・カレッジ (SJPC)

参加者 本校 1 学年生徒 7 名・2 学年生徒 9 名 計 16 名

引率者 宮本尚啓・濱田祐実教諭

オーストラリア研修は海外という普段とは全く違う環境での研修ということもあり、私たちはみな緊張と期待で胸がいっぱいでした。有意義な研修のために、昨年 10 月から現地での個人研究発表の準備を始め、現地の地理や生物に関する講義や英語によるコミュニケーション講座を受けて事前準備をしました。またパートナー校の生徒とスカイプで交流したり、個人でホストファミリーとメールで連絡を取り合ったりしながら、研修への意識を高めていきました。

出発の 3 月 2 日(土)は、多くの先生や保護者からの激励を受けて、富山空港を発ちました。羽田空港では、航空機トラブルにより 2 時間も待ち時間が増えましたが、予定通り 3 日(日)15 時 40 分にコフスハーバー空港に降り立ちました。空港では、緊張する私たちをホストファミリーの皆さんが笑顔で迎えてくれました。流暢とは言えないながらも身振り手振りで一生懸命に話そうとする私たちのホストファミリーの方々は優しく接してくれたので、私たちの緊張も和らぎました。その後はそれぞれの家庭に行き、一週間のホームステイを始めました。



3 月 4 日(月)、この日は終日バディとともに行動しました。SJPC に各家庭からバス、車、自転車で登校しました。歓迎会、授業参加、個人研究発表などがありました。歓迎会では現地のお菓子であるラミントンを食べながら、バディとの会話を楽しみました。現地の授業には日本の高校では習わないような経済、宗教などの科目があり、私たちも興味をもって参加しました。また、生徒一

人一人がパソコンを一台ずつ待っていて、それを活用した授業が行われていました。午後は私たちが一人ずつ準備してきた個人研究を発表しました。発表後には、現地の生徒からたくさんの質問を受けたり、研究についてもっと詳しく教えてほしいと言われたりして、研究の内容が聞き手にうまく伝わったとわかり、自分たちのしてきた準備が報われたように感じてとても嬉しかったです。

5 日(火)は四旬節に先立つ告解火曜日と結びつけられるパンケーキ・デイで、学校でパンケーキが配られていました。日本との文化の違いを感じました。その後、暑さのためか体調を崩した者もいましたが、私たちはバディとともにドリゴ国立公園で研修を行いました。ドリゴ国立公園に関する講義を受けた後、公園内を歩いて回りました。見慣れない動植物や樹齢が 100 年もある木を観察し、オーストラリアの大自然を感じる



ことができました。

6 日(水)には、サザンクロス大学を訪れました。指導員のステファン先生から海洋生物や海洋で起こっている問題について講義を受けた後、実際に水槽の海洋生物の観察をしました。午後にはみんなでビーチに行き、オーストラリアらしさを存分に体感し

ました。全員のジャンプがそろそろまで写真を撮り続けたことも思い出になりました。夕方にはマトンバード島に出かけました。アボリジニの子孫のアンクルマークさんからの話を聞きながら、マトンバードを探しました。強風のため、一時は見られないと思



われましたが、幸運にも地中の巣にいるひな鳥と、ひな鳥に餌を与えるために巣に帰ってきた親鳥の両方を見ることができました。また、空には北半球とはさかさまに見えるオリオン座やオーストラリアの国旗にも使われるサザンクロスなどを観察でき、改めて自分たちが南半球にいるということを実感しました。



7日(木)には、サザンクロス大学の近くのビーチで、バディとともにビーチに生息する生物の調査をしました。あいにくの雨でほとんど調査できませんでしたが、砂を掘ったり海に入ったりしてバディとの活動を楽しみました。その後は屋内に入り、ステファン先生の講義を受けたのち、実験を行いました。

8日(金)は、最後の登校日でした。授業参加をした後、現地での研修成果を発表しました。その時も多くの質問を受けましたが、一週間の滞在で慣れたのか、英語での受け答えも初回よりはスムーズに行うことができ、自分たちの英語力の向上を感じました。放課後には学校でお別れパーティがあり、ホストファミリーやバディが集まってくれ、最後の交流を楽しみました。パーティの終わりにはコアラのぬいぐるみをもらいました。このぬいぐるみは、見るたびにオーストラリアの楽しかったことを思い出させてくれる宝物になりました。

オーストラリア滞在最終日9日(土)には、ホストファミリーとともに空港に向かいました。お別れにあたり、最後まで優しくしてくれたホストファミリーに、それぞれが涙ながらに感謝の気持ちを伝えました。まだ日本に帰りたくない、ホストファミリーやバディと もっと過ごしたいと思いながら、コフスハーバーを発ちシドニーへ行きました。シドニーでは市内観光を行いました。ワイルドライフシドニー動物園ではウォンバットやタスマニアデビル、コアラなどのオーストラリア固有の動物を見ることができました。

その夜の9時35分にシドニー空港を発ち、翌10日(日)の朝5時に羽田、8時55分に富山空港に到着しました。空港では保護者や先生方が迎えてくれ、無事に帰国できたことに安心しながらも、日本に帰ってきたことに少し悲しさを感じました。先生や親と研修について話す中で、私たちは1週間本当に貴重な体験をし、多くのことを学んだのだと改めて感じました。

今は研修を終え、再び部活動と勉強で忙しい生活を送っています。しかし、研修で学んだ積極性や英語の知識によって、今の学校生活はそれ以前よりも豊かなものになっていると感じます。今回の経験を学校生活だけでなく、これからの将来に生かしていきたいと思います。また、研修中ホストファミリーやバディとの会話の中で、相手の言うことが聞き取れない、英単語がわからないというように、英語力



が足りないと感じる部分もありましたが、積極的に話してコミュニケーションを取ることができました。話す言葉が違って人間対人間の関わりにおいては発信力が重要で、自分の思うことをどうにかして伝える積極性が必要だと感じています。今後は英語力の向上はもちろんのこと、自らの積極性を磨いていきたいと考えています。